

長岡市長記者会見要旨

日 時：令和6年5月24日（金）午前10時30分から

会 場：アオーレ長岡東棟4階 大会議室

【会見項目1：ひきこもり相談支援室、居場所支援がスタート 支援のネットワーク化に向け地域資源ガイド発行】

（市長）

一つ目の項目は、支援のネットワーク化に向けた地域資源ガイド発行についてです。

今年4月に、ひきこもりの相談窓口と支援の主軸となる組織「ひきこもり相談支援室」を開設、5月23日現在で、延べ55件の相談受付がありました。

同じく4月に、越路ハイム地域生活支援センター内に、居場所支援の取り組み施設「こんぺいとう」を開設しました。

相談者の多くは、当事者の家族や親族で、いままでどこに支援を求めてよいか分からず、悩みを自分たちの中だけに抱え、当事者も含め孤立しがちであることが分かり、相談先や支援機関などが身近にあることを知ってもらうため、「ひきこもり支援の地域資源ガイド」を作成しました。

このガイドは公的機関、支援機関、家族会などの概要が掲載されており、支援が必要な方の手に渡るよう、地域包括支援センターや福祉相談事業所などに配布しています。また、今年度中にガイドに掲載されている機関、団体を中心として、ひきこもり支援のための官民ネットワークを構築したいと考えています。

ひきこもり支援には、多様な支援の選択肢と粘り強い取り組みが求められるため、今後も総合的かつ多面的な視点で取り組みを進めていきたいと考えています。

（記者）

「ひきこもり相談支援室」について、具体的な相談、ニーズや要望内容を教えてください。

（福祉保健部長）

相談者の多くは、当事者のご家族です。

具体的な例として、「高校卒業後、職に就いたが辞めてしまい、それ以来引きこもっている子がいる」や、「ずっと引きこもっている子がいて、精神的な疾患があるのではないかと心配しているが、当事者が医者に行きたがらない」などがあります。

多種多様な形で、それぞれのケースに寄り添い、どこが糸口になるかを見いだしていきたいと思えます。

（記者）

支援状況に応じたつなぎの部分は、現状できていますか。

（福祉保健部長）

つなぎとして居場所を紹介をしたことはありますが、実際に機関などに行くことは、なかなか難しい状況です。

（記者）

対象としている世代、年齢層を教えてください。

（福祉課長）

実人数が21件で、その年代別の内訳は、10代2人、20代2人。30代1人、40代が8人、50代が5人、80代が1人、不明が2人です。

(記者)

ひきこもりになる要因としては、何が多いですか。

(福祉課長)

傾向として多いのは、就労に関する要因です。

(記者)

なぜこのタイミングで、ネットワーク化しようとなったのですか。

(市長)

市民的、社会的な要請が高まってきたためです。

近年、長岡市議会では、引きこもりについての質疑が増えてきています。

また、引きこもりは社会的現象として、日本全体で増えてきており、長岡市においても今後対策、支援していく必要があるという認識です。

(記者)

ひとり暮らしの引きこもりの方については、どう対応するのか。

(福祉課長)

地域の方からの情報で、一緒に同行していただき対応するケースなどがあり、今後、あらゆる可能性、方策を試していく必要があると考えています。

(福祉保健部長)

ひとり暮らしの方については、民生委員や地域包括、福祉に関する機関などから寄せられた情報を参考に、アウトリーチ活動したいと思っています。

【会見項目2：渇水対策を行う農業者の負担軽減を1,200万円を実施 農産物等渇水対策を実施します】

(市長)

二つ目の項目は、農作物などの渇水対策の実施についてです。

この冬の少雪により、市内農家から「田植えに支障が出ている」、「ため池の水位が例年の半分程度で心配だ」などの報告を受けています。

今年の夏は非常に高温になることが予想され、農作物および錦鯉への被害の拡大が危惧されます。

昨年の記録的な猛暑や渇水などの被害と同等の被害が予想され、資金面での支援を行うことで、早急な対策をとっていただきたいと思えます。

申し込みは、5月27日から受け付けを開始したいと考えています。

予算規模は、全体で1200万円です。5、6月の所要見込額600万円は、専決処分に対応いたします。7月以降の所要見込額の600万円は、6月議会で可決されたら、実施します。

今後も渇水や高温などの気象状況に注視し、適切な対策に取り組んで参りたいと考えています。

(記者)

昨年度の補助と比較し、拡大した部分など教えてください。

(農水産政策課長)

2点変更があります。

1点目は、補助の上限を対象品目別ではなく、補助対象全体に対して設けたことです。全体で必要な額の2分の1を支援するという形に変更しました。

2点目は、ホース単体の購入を可能としたことです。

(記者)

昨年農家の収入保険の補助をされましたが、加入の意識、動きなどについてどのように見えていますか。

(農水産政策課長)

新規加入者78件、継続加入者319件、合計397件でした。

収入保険については、今年度も、引き続き予算化しています。

(記者)

今回の渇水対策について、被害の状況を教えてください。

(農林水産部長)

いまは作業に入れない水田の確認をしている状況です。確認できている箇所は25カ所程度で、面積は約40ヘクタールです。

(記者)

影響は限定的ということでしょうか。

(農水産政策課長)

現時点で確認できている被害状況は先程のとおりです。今回は被害の広がり方が昨年度よりも早く、そして深刻になると想定をしています。

(記者)

今回5月に予算措置を講じることについて、どのように感じていますか。

(市長)

田植えの準備が難しいとの報告は、今までに受けた記憶はありません。

冬の少雪に加え、昨年同様高い確率で高温が予想され、米作りや野菜作りにおいて、水不足が生ずる可能性があります。

水不足を想定し、準備と対策をしていきたいと思えます。

(記者)

ひび割れで作付けを諦めた田んぼなど、そこまで深刻化しているものはありますか。

(農水産政策課長)

「ひび割れて春作業ができない」や、「作付けを諦めた」という声はあります。

水田については、先程のとおりです。

錦鯉については、今が産卵で一番水が必要な時期です。今後も湧水が細い状況が続くことで、錦鯉の生産量減少に繋がってしまうため、支援をしていく予定です。

園芸については、枝豆の種まきの時期です。順調な生育に向け、今後の降雨状況を確認し、対策していくつもりです。

夏野菜について、ニンジン、山古志のかぐら南蛮などは、定植で雨を待っている状況です。

今後も状況を踏まえ、さまざまな緊急的対応、早めの対策を進めていきます。

【会見項目3：ふるさと長岡の恵みに乾杯！

日本酒で乾杯条例10周年 酒どころ長岡を盛り上げる】

(市長)

三つ目の項目は、日本酒で乾杯条例10周年の取り組みについてです。

「長岡市日本酒で乾杯を推進する条例」が、平成26年6月に議員発議で可決、県内で初めて制定され、今年で10周年目を迎えます。

この条例は、全国あるいは世界、世代を超えて、酒どころ長岡のプロモーション、魅力と文化を伝えてきたと私は考えています。

長岡の蔵元が造る日本酒の普及促進と伝統文化の継承を目的として、今年は長岡を盛り上げるさまざまな取り組みを進めていきます。

一つ目は、乾杯条例10周年記念イベント「ふるさと長岡の恵みに乾杯！」です。6月25日午後5時30分からアオーレナカドマで開催します。

セレモニーでは、鏡開き、一斉乾杯、ふるまい酒、各酒造のおすすめのお酒が当たる抽選会を実施いたします。また、市内協力店で乾杯1杯目が、無料サービスになる乾杯クーポンを配布し、まちなかへの経済波及効果を高めます。

地元の発酵食品を使ったおつまみを味わえる屋台が並ぶ「乾杯条例10周年で、あったか横丁」も同日開催します。

ぜひ多くの方からご来場いただき、長岡のおいしい日本酒を飲んで、交流の輪が広がることを願っています。

二つ目は、「乾杯条例10周年特別広報の実施」についてです。

中村真衣さんなど地元出身者を起用したポスター1000枚を市内の飲食店などで掲示します。「越後長岡酒の陣」インスタグラムでは、イベントの情報などを発信し、年間を通じた機運醸成を図っていきます。

三つ目は、「美味しい酒にアオーレ越後長岡酒の陣」についてです。

今年は9月の3連休の初日である9月21日に開催いたします。

乾杯条例10周年の特別企画として、ノベルティのプレゼントや、日本酒コンシェルジュの配置、乾杯交流コーナー設置など、さまざまな工夫をし、盛大に開催したいと考えています。

昨年、好評だった連動企画「長岡まちのみ」も予定しています。

チケットは6月21日から販売開始で、前売り券3500円、当日券4000円です。

イベント詳細は、ホームページやインスタグラムなどで随時発表していきます。

ぜひ多くの市民の皆さま、会社の皆さまから長岡のお酒を楽しんでいただきたいと思います。

(記者)

日本酒で乾杯条例が制定され10年経ちましたが、市民への浸透度、定着度についてどのように感じていますか。

(市長)

私は定着したと思っています。市内のさまざまな団体の皆さまが開催しているイベントや、懇親会などでは、乾杯条例の説明をしながら日本酒で乾杯をしていると聞いています。

(記者)

経済効果などの分析や評価はされているのでしょうか。

(観光交流部長)

日本酒離れが進んでおり、日本酒の消費量は減少傾向にあります。

今回のようなイベントで、日本酒の消費量拡大の取り組みなどを進めていきます。

【同時リリース：令和6年能登半島地震災害義援金の配分を決定】

(市長)

令和6年能登半島地震災害義援金について、配分決定いたしました。対象者には6月上旬にお知らせ文書を発送して、6月下旬から順次義援金を振り込みたいと考えています。

内容は、別途資料をご覧ください。

【その他の質問事項】

(記者)

指示権について、国会で審議が進められていますが、市長の見解をお願いします。

(市長)

自治体に対して、どういう問題、課題があるか、まだ考えをまとめていませんが、さまざまなパンデミックを含めた有事など、やはり国全体で対応すべきことはあると感じています。

今後は、法案の議論を見ながら、必要があれば発信していきたいと思います。

(記者)

市長選について、市長のお考えをお願いします。

(市長)

しかるべき機会、タイミングで発表したいと考えています。

(記者)

県内の教員の欠員数が多くなっていますが、長岡市の状況を教えてください。

(市長)

しっかりと把握していないので、教育委員会に確認したいと思います。

(記者)

UPZ議員研究会が資源エネルギー庁を訪問し、原発の再稼働に関して、国は立地自治体だけではなく、その周辺市町村にも理解を求める行動を取るべきだと要請をしました。

今後、国は長岡市や、見附市などで説明をしていきたいと考えて示されましたが、市長として考えはありますか。

(市長)

はい、当然説明をしていただきたいと思います。

(記者)

これまで説明が行われなかったことについて、どのように考えていますか。

(市長)

県内の自治体から出ている要望、特に30キロ圏内から出ている要望に対しての説明は、必要だと考えています。ぜひ、説明していただきたいと思います。

(記者)

熊に対して、市街地での猟銃の使用について、市長の見解をお願いします。

(市長)

市街地では、現状猟銃による駆除はできません。

市民の安全に繋がる場合、法律の改正により猟銃が打てる状況になることは歓迎したいと思います。

(記者)

先月中之島信条クリーンセンターで火災があり、現在も不燃ごみの処理ができない状況と聞いています。これについて市長の受けとめをお願いします。

(市長)

市民の皆さまにご不便をかけないよう、不燃物の受け入れについては継続していきたいと考えています。

現在、原因は調査中で、ある程度めどが立ちましたら、早急に復旧作業に入りたいと思います。

また、未然に防ぐ方法について、関係者と考えていきたいと思っています。

(記者)

施設の稼働再開の時期について、なにか情報がありましたらお願いします。

(市長)

まだありません。

(記者)

錦鯉の中国輸出について、昨年11月からストップして、まだ再開できない状態になっていますが、市長の受けとめをお願いします。

(市長)

早急に解消して欲しいと思っています。

中国の総領事が着任の挨拶に来られた時も申し上げましたが、また機会を作り、解除してもらうように申し入れしたいと思っています。